

「檜葉町復興計画〈第二次〉第二版（案）」パブリックコメント募集に寄せられたご意見等とその対応

ご意見 No.	年齢	該当箇所・見出し等	ご意見の内容・理由	対応（案）
1	50代	空き家バンク	現在の利用者は、作業員がほとんどで帰還しようとする住民の妨げになっている。作業員を一定の場所に集約する計画に反している。 作業員に貸すための空き家バンクはやめるべき。最低限、作業員宿舎等の看板を設置すべき。 女性や子供が安心して帰還出来ることを考えるべきで現在の方策は逆行している。	空き家バンクについては、作業員向けの宿舎とは別に、新たに町に進出する企業や研究機関などの従業者、長期避難が継続する地域の住民の方を中心に、住宅の提供を行うことを目的としています。
		コンパクトタウン	お年寄りには、非常に生活しにくい環境になっている。郵便局や金融機関、買い物環境は少なくとも竜田地区と木戸地区には必要である。	コンパクトタウンの形成と合わせて、デマンドバスなど町内交通を充実することで、利便性を確保する予定です。 【本編 p.13 第二章 2-1) (3)①、p.98 第三章 5-2) (1)③】
		農業の再生	どんなに風評被害を払拭しても、食品への不安は消えることはない。花卉や観賞用植物の栽培に移行すべき。工場型の農業にすることで若者の農業就労が増えるばかりでなく、新たな雇用を生むことが出来る。	農業の再生については、ご指摘のとおり、花き栽培などの検討、植物工場の導入促進などに取り組むこととしています。 【本編 p.50-51 第三章 2-2) (3)①、②】 今後、別途立ち上げた「農業再生プロジェクトチーム」において、関係者を交えての詳細・具体的な検討を行っていきます。
		仮置き場	住民の帰還の大きな妨げになっている。何年で無くなるのかを明確に住民に示すべき。長期間の保管により廃棄物の腐敗が発生して自然発火や異臭の原因となるため早期の対策が必要である。	仮置き場の設置が長期間にわたる可能性とそのリスクについては、町が設置した「檜葉町除染検証委員会」においても、専門的な観点からご議論いただいています。今後、その提言を踏まえ、必要な措置等を国はじめ関係機関に要望してまいります。
		除染	山林やダム湖底の除染がされていないことに大きな不安を抱える人が多い。補助金を有効活用して町として除染をすべき。	山林やダム湖底の除染についても、上述の「檜葉町除染検証委員会」において、今後のあり方を議論していただいています。今後、その提言を踏まえ、必要な措置等を町として検討するとともに、国はじめ関係機関に要望してまいります。
		就労の場	研究施設のような高学歴や専門家の施設をいくら作っても住民の雇用は生まれません。トヨタや日産、キャノンというような多くの住民が働ける企業を誘致すべき。	復興計画の中で、新たな企業の誘致に積極的に取り組むこととしています。これにより、町民の就労の機会を増やすとともに、そこで働く就労者を新たな町民として迎えることを目指します。 【本編 p.50 第三章 2-2) (2)③】
		補助金の使い方	箱ものは、将来に維持管理等で費用が発生してしまう。お金を生み出す物に補助金を利用すべき。民間のホテルを誘致するのではなく、町営の宿泊施設を建設して、廃炉作業の技術者の宿泊や作業員宿舎を町営で作ることで、作業員の分散が無くなると共に住民の雇用が見込める。 木戸川等の単独の観光では人は集まらない。補助金で町内をSLが走る町営鉄道や町営遊園地等を検討して見るのも良いのではないかと。	今後、復興計画に基づき各種施策・取組を推進していく上で、いただいたご意見を参考とさせていただきます。
国への対応	はたから見るとお金を貰えばなんでも了承すると見られている。ダメなことはノーと言うべき。既に避難指示が解除になっているのに今さら帰還時期を決めて意味があるのか大きな疑問です。	町では、町の復興と町民の生活再建のため、必要に応じて国をはじめとする関係機関へ要望等を行っています。 「帰町目標」については、避難指示の解除を受けてもすぐに帰町できるわけではないという現実を踏まえ、できるだけ多くの町民・事業者の帰還を目指すため、町独自で設定したものです。町では、帰町目標をひとつの目安として、今後さらにさまざまな施策を推進してまいります。		
2	40代		再生可能エネルギーの導入拡大を目指す町として、風力発電事業の導入を積極的に推進していくことが必要ではないか	ご意見を反映し、関連する取組項目の記載内容を以下のように充実します（下線部：追加・修正箇所）。  具体的には、これまでも検討等を重ねてきた風力発電について、沿岸部や内陸山間部などの適地検討を進め、積極的な誘致に取り組みます。加えて、小水力発電、間伐材や農作物等を利用したバイオマス発電などの導入を検討し、採算性など事業性を模索してまいります。【本編 p.53 第三章 2-2) (4)②】
3	30代	P22 2-2) 土地利用計画 (6) 農業の再生	・農業再生プロジェクトチームの提言には具体的な記載はないが、有機農産物あるいは特別栽培農産物といった高付加価値の農産物の生産に取り組む姿勢を目指しても良いのではないかと。	農業再生プロジェクトチームでは、今後さらに、関係者を交えての詳細な検討等を通じて、より具体的な対応などを明確化してまいります。いただいたご意見は、その際の参考とさせていただきます。

		P55 2-3) 町外との新たな 連携・交流 (1) 連携・交 流促進の仕組 み・機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地等に選定された場合、町内の宿泊施設が不足する可能性がある。国においても宿泊施設不足に対応するため、民泊を受け入れるための環境整備を進めている。民泊は新たな観光産業の創出と外国を含めた交流の促進につながるため、町においても民泊を促進するための取り組みを入れるべきでないか。</li> <li>(関連：4-4) やむを得ず帰町をしばらく見合わせる町民への支援(3) 町内の家屋等の保全、管理→空き家屋を民泊施設として活用することも検討できるのでは)</li> </ul>	<p>ご意見を反映し、民泊や、公共施設を用いた廉価な宿泊施設の提供を通じて交流人口を拡大する趣旨の内容を盛り込むため、以下のとおり文章を追記します(下線部：追加・修正箇所＝交通の復旧・復興に関するご意見を反映した追加・修正を含む)。</p> <p>また、町を訪れようとする方々の交通の便のため、首都圏といわき市を結ぶ高速バスの路線延長、ならばPAにおける高速バスの停留所設置などについて関係機関と協議するほか、町内での宿泊・滞在の場を提供するため、個人の住宅を宿泊施設として提供する「民泊」や、集会所などの公共施設に廉価で宿泊できる仕組みづくりなどを推進していきます。加えて、県等との連携により、... (後略) ...</p> <p>【本編 p. 56 第三章 2-3) (1)②】</p>
		P57 (2) 観光産業 の復活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内はかつて映画ロケ地としての実績があり、現在進行形で進んでいる復興、天神岬からの眺望、木戸川、木戸ダム、未だに残る仮置き場等撮影スポットがある。映画・TVドラマ等の撮影を受け入れるための体制づくり(フィルムコミッション)を進めるべきではないか。</li> </ul>	<p>ご意見を反映し、第三章 2-3) (2)の取組項目「②絆ツアー(仮称)の推進」を、「②絆ツアー(仮称)等の推進」と変更するとともに、以下のとおり文章を追記します(下線部：追加・修正箇所)。</p> <p>... (前略) ... スタディツアーを目指します。</p> <p>また、檜葉町はかつて映画ロケ地となったこともあり、天神岬からの眺望や木戸川、木戸ダムなどの美しい景観、町内に未だ残る仮置き場、復興に取り組む人々など、現在進行形で災害からの復興を示すことのできる撮影スポットなどがあります。こうした地域資源を有効活用するため、映画やテレビドラマ、ドキュメンタリーなどの撮影場所誘致・撮影支援を行う体制(フィルム・コミッション)を整えていくことも検討します。</p> <p>これらを通じて、地震・津波の災害と原子力災害による被害と、その後の苦しかった避難生活、さらには復興に向けた歩みとともに、檜葉町の良さを国内外の多くの方々を知って頂くことが、より多くの方との絆の構築につながります。</p> <p>【本編 p. 58 第三章 2-3) (2)②】</p>
		P97 5-2) インフラ 復旧等による生 活基盤の回復 (1) 交通の復 旧・復興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年春までに浪江以北の常磐線が再開通し、仙台圏と1本でつながることから、相双以北との交流を一層促進させるため、現在のJR代行バス(1日2往復)の大幅増便に取り組むべきではないか。</li> <li>・首都圏からのダイレクト誘客を促進するために、町内に首都圏との高速バス停留所を設けるための取り組みを行うべきではないか。(ならばPAスマートIC等の設置も契機に)</li> </ul>	<p>ご意見を反映し、代行バスの増便要望について、以下のとおり文章を追記します(下線部：追加・修正箇所)。</p> <p>竜田以北の復旧は、浪江以北が平成29年春までに運行再開を予定しているものの、竜田-富岡間は「平成27年3月から3年以内を目処」、富岡-浪江間は「再開時期未定」とされています。</p> <p>浪江以北の運行再開により、仙台圏とのつながりが復旧することから、相双以北との交流を一層促進することが望まれるため、現在、運休区間で運行されている代行バスについて増便することを関係機関に要望します。</p> <p>また、復旧・復興や除染作業の進展に伴い、... (後略) ...</p> <p>【本編 p. 97 第三章 5-2) (1)②】</p>
4	70代	全体	全体として、文字が非常に多くて読みにくいと思う。できるだけ写真や図などを用いるなどして、わかりやすくしてもらいたい。	今後、印刷・製本に向け、写真やイラスト、図などをできるだけ盛り込み、視覚に訴えるわかりやすい計画としていきます。
5	30代	P34 (1) 魅力ある 小中学校の再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設校舎での教育について、「教育を再開」という表現はおかしいのでは?</li> <li>・「学校再開検討委員会の検討により～」とあるが、最終決定は、町の総合教育会議で下したのではないか。</li> </ul>	<p>ご指摘のとおりですので、以下のように文章を修正します。</p> <p>... (前略) ... 現在はその場所で教育を行っています。町内での小中学校の再開は平成29年4月から、改築の完了した中学校校舎を用いる予定となっており、これをより魅力的な学校としていきます。</p> <p>【本編 p. 34 第三章 1-1) (1)①】</p>

6	60代	P62 ⑤ゆずの里なら はの再生	現在、実証栽培をしている場所は、ゆずを栽培する場所として、あまり適していないのではないかと。ゆずの里は、どこにできるのか。	「ゆずの里ならは」を目指して植樹を進める場所は、今後、町内でゆず栽培に適している場所を検討・選定していきます。必ずしも現在、実証栽培をしている場所に決まっているわけではありませんので、誤解を生じないように、文章について以下のように修正します（下線部：追加・修正箇所）。  …（前略）… 現在、 <u>国道6号線沿いでゆずの実証栽培を実施</u> しています。今後、この実証栽培の結果をもとに、ゆずの植樹を進めるなどして、 <u>その樹・果実を愛でることができる景観を作り出すとともに、ゆずを使った産品を開発して6次産業化を図り、ゆずの里ならはの再生を目指します。</u> 【本編 p. 62 第三章 2-4) (2)⑤】
7	40代	P64 3-1) 災害に 強い人・仕組み づくり	ここに、「原子力発電所の事故は未だ完全に収束していない」と書かれています。避難指示を解除するのは早すぎたのではないですか。	福島第一・福島第二原子力発電所については、町が設置した「 <u>楡葉町原子力施設監視委員会</u> 」で、その安全確保について専門家の立場から確認しています。その中では、現状はさまざまな安全対策によりリスク低減が図られているとされる一方で、今後とも長く続く廃炉作業にはリスクがあり、適切な対応が必要とされています。ここでは、そのような趣旨をより明確にし、誤解のない表現とするため、以下のとおり文章を修正します（下線部：追加・修正箇所）。  また、 <u>事故を起こした福島第一原子力発電所では、これからも廃炉作業が長く続くことなどから、今後とも国・事業者等に…（後略）…</u> 【本編 p. 64 第三章 3-1)】
8	60代	P21 ③北部新産業ゾ ーン	「北部新産業ゾーン」とされている箇所は、現在は仮置場として利用されており、また、減容化施設ができる場所なのではないか。そこを新産業ゾーンとして利用できるのか。	ご指摘のとおり、北部新産業ゾーンとしている地域には、現在、仮置場があり、また減容化施設の建設が進められるなど、楡葉町の復興を支える重要な位置づけとなっています。しかし将来的に、これらの施設等が不要となり撤去される時期を見据えて、新たな産業の誘致などに取り組むこととしました。こうしたことをより明確に伝えるため、以下のとおり文章を追記します（下線部：追加・修正箇所）。  <u>北部新産業ゾーンは、現在、除染廃棄物の仮置場があり、また災害廃棄物の減容化処理を行う仮設焼却施設の建設計画が進められるなど、町の復興を支える地域となっています。</u> <u>この地域では、将来的に、イノベーション・コースト構想で示されている新たな産業集積を目指し、…（後略）…</u> 【本編 p. 21 第二章 2-2) (5)③】
		P22 ③景観作物	除染廃棄物の仮置き場などに使われている農地について、返還されてもすぐに農地として活用することは困難とあるが、なぜそのように言えるのか。	一定期間、農地として利用していなかった土地については、まず地力を回復させるなどの対応が必要です。また、風評被害を懸念して、農産物を生産しようという意欲がなかなか湧いてこないという現状もあります。その旨をわかりやすくするため、以下のとおり文章を追記します。（下線部：追加・修正箇所）。  <u>こうした農地は、しばらく農地として使われていなかったために地力の衰えなどが懸念され、また農作物に対する風評のおそれから農業再開の意欲が削がれる状況にあるため、返還されてもすぐに従来のような農業用地として活用することは困難です。</u> 【本編 p. 22 第二章 2-2) (6)③】
9	20代	P55 ①ならは応援団	ならは応援団の中で、「なにかし隊」が結成されて、いろいろ活動しています。そのことに触れてはどうですか。	ご指摘のとおり、ならは応援団の「なにかし隊」が結成され、すでに活発に活動を行っています。なにかし隊は、町民主体のまちづくり活動であることを踏まえ、次のように別の箇所で、その活動について触れることとします（下線部：追加・修正箇所）。  …（前略）… 推進役を果たすことが期待されています。 <u>すでに、町民主体のまちづくり活動を実践していくため、ならは応援団に町民からなる「なにかし隊」を結成し、事務局としてその活動を支援しています。</u> 【本編 p. 25 第二章 3-1) (4)】